

平成15年6月24日

長野県知事 田中 康夫 様

長野県治水・利水ダム等検討委員会  
委員長 宮地 良彦

### 治水・利水問題についての総括的提言

当委員会は、長野県知事からの諮問を受けた9河川について、平成13年6月25日から平成15年6月20日までの2年間に、32回の検討委員会および河川ごとの部会を通じて治水・利水問題の審議・検討を重ねてきた。その結果は各河川についての答申書として提出されているが、この間の審議の経緯を踏まえ、検討委員会は総括的視点に立って今後の長野県の治水・利水問題について以下のように提言する。

#### 1 事業計画の早期段階における構想の審議・検討について

治水・利水計画のような大型事業においては、いくつかの要素が複雑に絡み合っているため、いったん計画が進行し始めると途中の段階で見直しを行なうことはいろいろ問題を生ずる恐れが大きい。このような事態を避けるためには、計画立案のできるだけ早い段階において構想を客観的に検討する場を設けることが極めて有用である。この点についてすでに長野県公共事業評価監視委員会からの提言もあったと聞くが、治水・利水問題についての当委員会の審議においても、計画初期段階における審議が問題の処理に極めて有効であることを実感させる場合があった。

このような経緯を踏まえて、当委員会は、事業計画立案の早期段階においてその構想を客観的に検討する場を設けて審議を行なうことを強く提言する。

#### 2 事業計画の進行途中における見直しについて

基本高水流量の算定は治水計画の根幹をなすものであるが、一見技術的なものと思われがちだがこの問題の中には、最終決定までの間に人為的な判断がいくつも入り込んでいることが明らかになり、当委員会でも計画規模の決定、カバー率の選定、流域面積の判定、流出計算の各種パラメーターの数値などいくつかの問題の再検証が必要であるとの指摘がなされた。この問題は河川整備計画

の策定にも大きな影響を与えている。

また利水計画についても、水道水や農業用水は住民の生活に直結するものであると同時に、水需要計画は関係自治体の政策や水利権とも密接に関連する問題であることから、委員会として踏み込むことが難しい側面を持っている。しかしながらこの問題は、経済的・社会的な情勢の変化に伴ってかなりの変動がありうると考えられ、委員会でも適正な水需要計画について多くの議論が交わされた。

このような経緯から、当初の計画立案から完成までかなりの年月を要する治水・利水計画等の大型事業を進めるに当たっては、絶えず基本的データを収集することに努めることにより、事業計画の進行途中においてもあらゆる機会を捉えて内容を見直しながら、新しい問題点の指摘や経済的・社会的情勢の変化に柔軟に対応するよう委員会は提言する。

### 3. 治水・利水問題への今後の取り組みについて

当委員会はこれまでの答申を通じていくつかの提言を行い、そのうち水資源確保に関する市町村への財政支援策や流域協議会の設置等については、県の対応が打ち出されている。

長野県の治水・利水問題については、今後乗り越えなければならない障害がいくつか残されている。2年間に亘る委員会の議論の中で、県側は旧来の計画・手法の正当性を主張する機会が多かったが、一方現地事務所からは積極的な新しい挑戦も見受けられた。

今回の治水・利水問題の情報公開と住民参加による議論の進め方は、行政主導の政策形成・運営からの転換ができたと考えている。今後自治体を取りまく環境は大きく変動すると予想され、それに伴う住民ニーズの変化なども想定される。

この意味から、今後の問題処理に当たっては、当委員会が必ずしも十分に審議できなかった水と環境の問題や下流域との関係などにも留意するとともに、国、県当局、市町村および県民が一体となって意志の疎通を図りながら相互信頼に基づいた協議を進める体制を作り上げることがきわめて重要である。

委員会は県民の長野改革についての熱意に全幅の信頼を置きながら、政策は現場から生まれるという視点に立って、県当局が新しい挑戦の姿勢を持って問題解決に当たることを切に希望して提言とする。

以上

長野県治水・利水ダム等検討委員会委員名簿

(五十音順)

氏 名	所 属
宮 地 良 彦	信州大学名誉教授
大 熊 孝	新潟大学工学部教授
五十嵐 敬喜	法政大学法学部教授
石 坂 千 穂	長野県議会議員
植 木 達 人	信州大学農学部助教授
風 間 辰 一	長野県議会議員 (注1)
高 田 直 俊	大阪市立大学工学部教授
高 橋 保	安曇村議会議長
竹 内 久 幸	長野県議会議員
浜 康 幸	長野県議会議員 (注2)
藤 原 信	宇都宮大学名誉教授
松 岡 保 正	長野工業高等専門学校教授
松 島 貞 治	泰阜村長
松 島 信 幸	伊那谷自然友の会常任委員
宮 澤 敏 文	長野県議会議員

委員長 委員長代理

注1 風間委員の任期は平成14年5月14日から

注2 浜委員は平成14年10月31日に辞任